

# 常なる磐

つねなる いわ season II

令和3年10月29日(金)

その2

## ◇ 白亜の校舎③ (校舎設計者の秘密)

「豊田スタジアム」画像を掲載したのには訳がある。  
奇抜でありながら、流麗美を醸し出す豊田スタジアム。  
設計者は本校校舎の設計者と同一人物という情報を得た。



その人物は、黒川紀章氏。日本が世界に誇る建築家だ。

校舎設計・建設当時の中根鎮夫  
岡崎市長が黒川氏と懇意であり、  
本校建設に対し、黒川氏が設計に



大きく関わったということであった。

本校建設時の水回り工事に関わったフジ興業の小野さんが、当時を振り返りながら熱く語ってくれた逸話である。



黒川氏が愛知県出身(海部郡蟹江町)ということもあり、丹羽郡大口町立大口中学校(黒川氏の遺作)や豊根村立富山小中学校(廃校)など、愛知県の公立小中学校の設計にも関わっていることが分かった。

※屋根がなく、天井が平板状の学校がほとんど

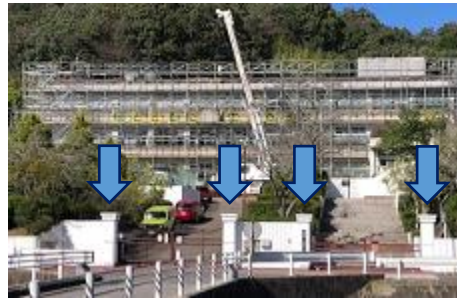
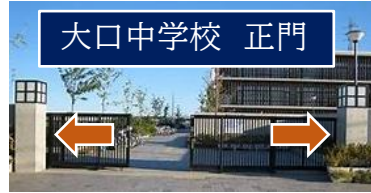


いずれも尾張地方の学校の中、黒川氏が本校の設計に携わった経緯は、先に述べたとおりである。

黒川氏が設計した学校デザインに共通する大きな特徴の一つに「屋根」の存在がある。本校舎3棟には、いずれも「山形の屋根」があり、この小豆色の屋根が持ち味となっている。※豊田スタジアムの最大の持ち味も屋根である。



二つ目は、正門の「門柱」の存在だろう。  
 多くの学校が右写真のように壁面で正門を形成するのに対し、左写真の大口中学校は両脇の門柱➡が正門を彩っている。



本校も然り。  
 門柱頭は意匠性の高い大口中に及ばないかもしれないが、本校の門柱は実に4本。頭を備えた四門柱➡により、正門に威厳をもたらし、正門の格式・品格を高めている。

市内の他小中学校には見られない本校独自の特徴もある。



- ① 【法面がある】：壁を高くするのではなく、法面で対応することで壁を低くし、安全性を高めている。法面を利用した植栽文字により、見た目もよい。※植栽文字は、以前、新香山中学校にもあったが、立ち枯れにより撤去された。
  - ② 【校内各所の壁】：高低差による危険個所に壁を配置することで空間を遮り、安全性を高めている。市内小中学校では他に例を見ない。
  - ③ 【デザイン階段①】：階段途中に空間を配置することで、幼い子供でも上りやすい。空間が転落事故による大けがの危険を防いでいる。
  - ④-1 【デザイン階段②】：曲線を配した階段は珍しい。校内に高低差のある本宿小などでもデザイン階段は見られる。
  - ④-2 【ギョギョランド池】：自然を生かしたビオトープ。市内小中学校でも珍しい。
  - ⑤ 【旗掲揚ポール】：建物敷地と一体になっているタイプは珍しい。運動場から掲揚される旗を見ることを想定した形。
- ※管理棟側面の様子から、屋根があることを確認できる。



外観のデザイン工夫に加え、多目的ルームのづくり・使用素材、丸柱の多用など、児童の安全性に配慮した黒川氏の工夫が随所に感じられる。そして「意匠性・機能性とも優れた学校」だと、改めて実感するのだった。

※因みに、故 黒川紀章氏の奥様は大女優の若尾文子さん。

